

長内 健喜（おさない・たてき）

1、プロフィール

昭和7年より短歌を作り、教師として転任しながら、作品を「小樽新聞」「北海タイムス」「黎明」「座標」「青森県教育」などに発表。短歌会を主宰して後進を指導した。

<生没>

1898(明治31)年2月9日 ~ 1964(昭和39)年1月12日

<代表作>

歌集『ふるさと』『長内健喜歌集』

<青森との関わり>

南津軽郡柏木町(現平賀町)に生まれた。青森師範学校卒業、県内各地の小、中学校で教鞭をとる。

2、作家解説

明治31年2月9日、南津軽郡柏木町(現平賀町)に生まれる。大正2年4月、青森師範学校本科に入学、同7年3月に卒業した。昭和7年より短歌を作り、教師として転任しながら、北海道では「小樽新聞」「北海タイムス」に作品を発表する。健喜の短歌制作は教育活動と相即して燃焼するのであるが、大畑町では同志を糾合して短歌会を主宰し「東奥日報」「座標」「青森県教育」などに意欲的に作品を発表した。昭和8年、三たび青森市に帰り、「東奥日報」「樹氷」に発表、みずからも「芸苑」を発行。国民文学同人となり、「オリオン」や「座標」の短歌会にも出席した。昭和37年6月、歌集『ふるさと』を刊行。昭和39年1月12日永眠。行年66歳であった。潮汐短歌会に入会した妻いしによって、40年12月『長内健喜歌集』が発刊された。

代表歌

空襲に焼け残りたる古鉄瓶わがそばにあり五度目の新年

洋岳が心づくしの山料理岩魚の味は忘れざるべし

待ちわびし夫の遺歌集出来上り一夜とほして一気に読みぬ(長内いし)

3、資料紹介

○歌集『長内健喜歌集』

図書

1965(昭和40)年12月12日

190mm×130mm

第二歌集。逝去した翌年、妻いしの編集によって発行された。装釘、山口晴温、温厚なる人柄と諦観せる人生を詠った389首の短歌と長歌2篇が収められている。